

2024年度教育学科 学位授与の方針（学生が身に付けるべき 資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

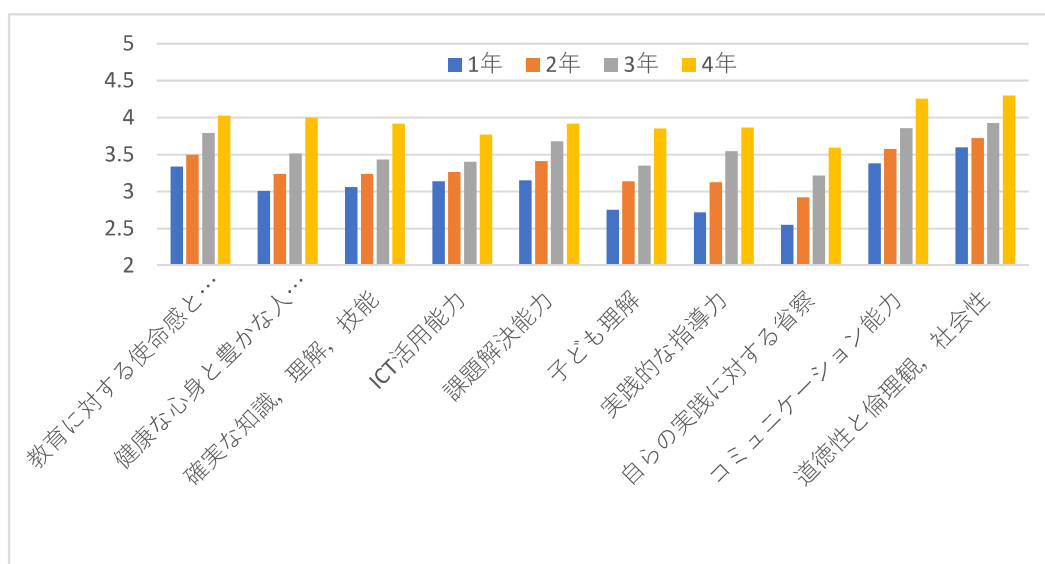
マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用して検証を行った。当学科の学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）は、は以下の通りである

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fe.html>。

「考える楽しさ」「学ぶ喜び」を育てる専門職として、乳幼児・児童・生徒一人ひとりの発達の特性を理解し適切に対応し、学んだ諸能力を現場で効果的・柔軟に発揮して実践を行い、乳幼児・児童・生徒や保護者を受容的に支援しながら、自らの「学び」を土台に、自ら考えたことや実践したことについて省察する能力を有する学生に学位を授与します。」

「学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）」の結果

1. 各学年の回答者数は、1年生が178名（71%）、2年生が80名（32%）、3年生が97名（39%）、4年生が74名（30%）であった。
2. 全学年・全項目で1～5の範囲の回答は平均2.5以上であった。
3. 全学年平均で高得点を示した上位3項目は、「道徳性と倫理観，社会性（3.8）」、「コミュニケーション能力（3.7）」、「教育に対する使命感と責任感（3.6）」であった。低得点の項目は、「自らの実践に対する省察（3.0）」、「子ども理解（3.1）」、「実践的な指導力（3.2）」であった。



4. 全項目で4年生が最高点、1年生が最低点、2・3年生は、1年生と4年生の間の得点を示し、学年とともに学習の深まりが示唆された。また、高得点を示した3項目は、1年次の得点も高く、このような資質を有する学生が選抜されているものと思われる。一方

で、低得点の3項目は、いずれも卒後を含めた関連する経験の多寡が影響するものであり、ある意味、現状を過剰評価せず的確に評価している可能性、あるいは、ゼミ毎の活動の差などの影響が考えられた。以上、概ね、前年度と同様の傾向が認められた。